

街路樹

学力向上に向けて ⑩

～ 瞬間判断 ～

あこがれる背中がある。板書しながら、子どものつぶやきや様子を感じ、書くのをやめる。ふりかえる。子どもたちに問いかける。「今の、〇〇君のいったこと、みんなはわかったかな。」感じる背中である。このような「瞬間判断」を、意図的に行うことは、教師の指導力の中でも重要であると考えている。

授業全体を見渡すのは、教師の目である。つぶやきをつかみとるには、教師の耳と気配を感じ取る鋭敏さが必要である。たとえ、板書をして子どもに背を向けている場合でも、全神経を子どもの動きに向けていることが大切であり、このような指導力を向上させることが、学力の向上に結びつくと考える。

日本女子大学の澤本和子教授は、教師の指導力の内実と力量形成ということで、次のように論述している。

実際の授業場面での対応が教師の指導力の中核に位置づくとなれば、次の能力の形成が問題になる。

- ① 授業実践場面での問題を発見する能力
- ② 発見した問題の原因を即刻その場で解明する能力
- ③ 問題解決する手立てを見いだして決める意志決定能力
状況判断し、解決策を探り、自分の指導レパートリーから対処法を選択して意志決定する。
- ④ 問題への対処行動を実施する能力
- ⑤ 実施後の成果(子どもの反応)をみとる能力

一連の場面においては、教師の実践知が関与する。実践知をつけるには、次の段階がある。

- ① よき先輩の授業をまねしながら学ぶ段階
- ② 自分なりのやり方を見いだして、工夫する段階
- ③ 自分の方法を洗練させる段階
- ④ 人にわかるように説明し、実行する段階

複雑多岐な情報をわずかな時間で処理する高度な思考や判断力とそれを即座に実行する身体的な能力が、この「瞬間判断」でないだろうか。

自分の実践をふり振り返り、子ども、教材、指導方法について新鮮な目で見直す。学ぶ教師から学ぶ子どもが育つという意味で校内研究は、教師にとって大変重要な成長の場になるだろう。ふり振り返りは、「個人」「対話ができるブロック」「学校全体」でできる。それぞれの場で、指導力を高めたい。

ふり返ることは、瞬間判断の力を向上させる第一歩である。

授業改善・指導技術 ⑧

～ 板書の仕方とそのポイント ～

授業を展開していく指導技術として、板書は重要な役割をもちます。街路樹2～8号に具体的な「板書・ノートの指導技術」が載せてあります。ここでは、板書の心得を整理してみました。

- 1 板書の分量を考えて、板書計画を作成する。
 - 学習のねらい・過程(基本が残るように)・まとめ(成果)
 - 黒板への配置、掲示資料・絵や写真などの活用
- 2 知覚を促す(印象づける)配慮をする。
 - 下線、囲み、記号化・構造化、色・チョークの利用
- 3 子どもの活動・反応を反映させるようにする。
 - タイムリーに、発言を分類整理して、簡潔に
- 4 文字は、楷書で正しく書き、送りがなにも気を付ける。
- 5 実態(学年)に応じた文字の大きさと書く。
- 6 子どもの動きに合わせて、速度を加減する。
 - 読む・聞く・考える・書く力に応じた間の取り方
- 7 板書を写すだけでなく自分の考えを加えるノートづくりをさせる。
- 8 話しながら書かない。

※ 「板書は、授業構造の一投影であり、教材研究の深淺や教師の性格まで写す鏡である。」と言われる。専門職者として、板書を授業改善に生かしていきましょう。

学級経営のヒント ⑧

～ 学級の荒れを生み出さないための配慮の視点 ～

学級の荒れは、子どもたちの願い(勉強がわかりたい、みんなに認められたいなど)が実現されないことへの子どもいらだちの表れと見ることができます。そこで、学級の荒れの状況を生み出さないための教師の配慮の視点を四つ示してみます。

- 1 学習規律等の約束ごとを明確にする。
 - 学習等の活動は、学習規律がきちんと確立されていることが前提。
 - 2 わかる授業の実現に努力する。
 - 学習がよくわかり、自分の力が確実についたことを実感できる工夫。
 - 3 子どもの気持ちを理解する。
 - 子どもが満足感を得るためには、教師が自分のことを受け止めていてくれるという実感が味わえることが必要。
 - 4 開かれた学級づくりを目指す。
 - 子どもは、様々な人から認められることで満足感を持つ。
- ※ 学級が荒れた状況になったときには、隠さず、早く学年の教師や管理職に報告し、すばやく状況改善に取り組むことが大切。

研修の感想・講義紹介

道徳教育実践講座③の感想より

- 授業の前に、教頭先生から授業参観の視点についてのご講義をいただいたことで、価値に迫る工夫の数々のアイデアが、実際の授業になる過程を見ることができ大変ためになりました。(中・S)
- 道徳の授業では、自由に言える環境が大事だと感じた。(小・S)
- 価値をしっかりと捉えていくことが改めて大事だと感じた。(小・T)
- F校長先生の講義を聞き、教師も共に悩み、考え、感動し、心を豊かにしていく大切さを改めて実感することができました。(小・M)
- 道徳の授業の進め方や「深める」段階での様々な手法(モラルジレンマ、ロールプレイング、グループエンカウンター)について詳しく学ぶことができた。(小・T)

特別支援学校研修講義より

- ～ 特別な教育的支援を必要とする子どもたちとのかわり ～
福島県立いわき養護学校 安藤 俊典 校長
- ◇ 注意欠陥／多動性障がい(ADHD)児の場合
- 1 集中時間を欲張らないで設定。
 - 2 指示は、簡単で具体的なことばで出す。
 - 3 「やっつはため」ではなく、できることから教える。
 - 4 強制は逆効果。
 - 5 保護者との連携・医療との連携をとる。
 - 6 教師の意識を変える。
- ※ ADHD児は、幼児期から、周りが困るような問題行動をたくさん起こすので、注意や叱責を受け続けています。しかし、意識してそのような行動をしているわけではないので、反省するよりは反発したり、周囲から認められないという意識だけが積み重なっていくことになります。それに伴って、自信を失い自己評価を下げてしまいます。それが、二次障がいにつながるのだと考えられています。